



## 2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年2月7日

上場会社名 アニコム ホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 8715 URL <https://www.anicom.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 小森 伸昭  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 (氏名) 亀井 達彦 (TEL) (03) 5348-3911  
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第3四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年12月31日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	経常収益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	30,585	16.5	1,372	△25.1	976	△24.4
2019年3月期第3四半期	26,261	10.3	1,833	43.0	1,291	41.3

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 1,103百万円 (0.0%) 2019年3月期第3四半期 1,103百万円 (26.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	48.32	48.29
2019年3月期第3四半期	69.35	68.58

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	44,632	23,284	51.9
2019年3月期	42,390	22,234	52.1

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 23,144百万円 2019年3月期 22,082百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	経常収益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	42,400	18.3	2,300	1.0	1,620	0.6	80.16

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	20,225,400株	2019年3月期	20,211,480株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	5,752株	2019年3月期	1,895株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	20,211,621株	2019年3月期3Q	18,626,463株

※四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料] P. 3 「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	10
(1) 2020年3月期 第3四半期損益状況	10
(2) 経常収益の状況	11
(3) 種目別保険料・保険金	11
(4) 有価証券関係	12
(5) ソルベンシー・マージン比率	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税率引き上げによる民間消費の落ち込みがあったものの、底堅い企業収益や雇用・所得環境の改善に支えられ、緩やかな回復基調が続きました。今後は通商問題をはじめ中国経済を含めた海外情勢の先行きや相次ぐ自然災害の影響などが不透明ですが、引き続き緩やかな回復基調で推移する見通しです。

このようななか、当社グループの中核子会社であるアニコム損害保険株式会社では、重点施策と位置付けている「ペット保険のさらなる収益力拡大と独自性の追求」に向け、商品開発の強化や販売チャネルの営業強化などに注力しており、保有契約数は796,167件（前連結会計年度末から42,835件の増加・同5.7%増）と、順調に増加しております。また、E/I損害率注1)は新規契約増による商品ポートフォリオの改善や商品改定による料率改定の効果により58.5%と前年同期比で1.4pt改善いたしました。既経過保険料ベース事業費率注2)は、引き続き規模拡大に向けた積極投資により37.3%と前年同期比で3.3pt上昇いたしました。この結果、両者を合算したコンバインド・レシオ（既経過保険料ベース）は前年同期比で1.9pt上昇し95.8%となりました。

また、当社グループは今年度を基礎固めから第二期創業期としてのフェーズへ移行する期と位置付け、あらゆるデータから、病気・ケガを分析し、「健康度」を見る予防型保険会社グループへ成長するため、新規事業の重点施策に対する取組みを加速させております。遺伝子検査事業については、避けられる遺伝病を繁殖前後の遺伝子検査によって回避し、その後は遺伝子解析といった科学・技術・データに医療のサポートを加えたブリーディング支援に繋げていきます。加えて、腸内フローラ測定によるどうぶつ健康チェックの普及、共生細菌をキーにしたフード開発、生活習慣コンサル等の事業化を進めております。さらに、どうぶつ医療における高度先進医療（細胞治療、再生医療）を実用化し、拡大を図るとともに、カルテ管理システム事業の拡大（予約システム等の機能の充実）等とあわせ、データのさらなる活用による予防法の開発、ペット関連事業の海外展開を目指しております。

以上の結果、当社グループにおける当第3四半期連結累計期間の業績は次のとおりとなりました。

保険引受収益28,879百万円（前年同四半期比14.1%増）、資産運用収益374百万円（同38.3%増）、新規事業等を含むその他経常収益1,331百万円（同99.0%増）を合計した経常収益は30,585百万円（同16.5%増）となりました。一方、保険引受費用20,251百万円（同15.7%増）、営業費及び一般管理費8,392百万円（同26.1%増）などを合計した経常費用は29,212百万円（同19.6%増）となりました。この結果、経常利益は1,372百万円（同25.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は976百万円（24.4%減）となりました。

注1) E/I損害率：発生ベースでの損害率。

$(\text{正味支払保険金} + \text{支払備金増減額} + \text{損害調査費}) \div \text{既経過保険料}$  にて算出。

注2) 既経過保険料ベース事業費率：発生ベースの保険料（既経過保険料）に対する発生ベースの事業費率。

$\text{損保事業費} \div \text{既経過保険料}$  にて算出。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ2,242百万円増加して44,632百万円となりました。その主な要因は、有価証券の増加5,288百万円であります。

負債の部は、前連結会計年度末に比べ1,192百万円増加して21,348百万円となりました。その主な要因は、保有契約の増加に伴う保険契約準備金の増加1,604百万円であります。なお、金融機関等からの借入金はありません。

純資産の部は、前連結会計年度末に比べ1,050百万円増加して23,284百万円となりました。その主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益976百万円の計上によるものであります。

#### ②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、保有契約の順調な増加により、責任準備金が1,276百万円増加したこと等により2,716百万円の収入となりましたが、前第3四半期連結累計期間に比べると321百万円の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、6,056百万円の支出となりました。主に有価証券の取得による支出であり、前第3四半期連結累計期間に比べると5,390百万円の支出の増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前第3四半期連結累計期間では5,861百万円の収入、当第3四半期連結累計期間では97百万円の支出となりました。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より3,436百万円減少し、24,256百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績予想のうち、連結業績予想につきましては、2019年5月9日に公表致しました決算短信中の「2020年3月期の連結業績予想」をご参照ください。なお、今後の業績推移により修正の必要が生じた場合には速やかに公表致します。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
現金及び預貯金	29,643	26,206
有価証券	4,660	9,949
貸付金	225	155
有形固定資産	1,367	1,537
無形固定資産	1,506	2,010
その他資産	4,344	4,079
未収金	1,895	1,789
未収保険料	445	489
仮払金	1,396	1,054
その他の資産	606	746
繰延税金資産	718	769
貸倒引当金	△76	△75
資産の部合計	42,390	44,632
<b>負債の部</b>		
保険契約準備金	16,041	17,646
支払備金	2,148	2,477
責任準備金	13,893	15,169
その他負債	3,867	3,529
賞与引当金	191	109
特別法上の準備金	54	62
価格変動準備金	54	62
負債の部合計	20,156	21,348
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	7,950	7,980
資本剰余金	7,840	7,870
利益剰余金	6,443	7,319
自己株式	△0	△0
株主資本合計	22,233	23,169
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	△150	△24
その他の包括利益累計額合計	△150	△24
新株予約権	151	139
純資産の部合計	22,234	23,284
負債及び純資産の部合計	42,390	44,632

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
経常収益	26,261	30,585
保険引受収益	25,321	28,879
(うち正味収入保険料)	25,321	28,879
資産運用収益	271	374
(うち利息及び配当金収入)	111	155
(うち有価証券売却益)	159	219
その他経常収益	669	1,331
経常費用	24,428	29,212
保険引受費用	17,496	20,251
(うち正味支払保険金)	13,789	15,160
(うち損害調査費)	761	813
(うち諸手数料及び集金費)	2,254	2,672
(うち支払備金繰入額)	231	328
(うち責任準備金繰入額)	459	1,276
資産運用費用	3	6
(うち有価証券売却損)	2	6
(うち有価証券評価損)	1	-
営業費及び一般管理費	6,654	8,392
その他経常費用	273	561
(うち支払利息)	0	0
経常利益	1,833	1,372
特別利益	9	11
固定資産処分益	-	2
新株予約権戻入益	9	8
特別損失	6	30
固定資産処分損	0	13
特別法上の準備金繰入額	5	8
価格変動準備金繰入額	5	8
その他	0	9
税金等調整前四半期純利益	1,836	1,353
法人税及び住民税等	475	477
法人税等調整額	69	△100
法人税等合計	544	377
四半期純利益	1,291	976
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,291	976

（四半期連結包括利益計算書）  
（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）
四半期純利益	1,291	976
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△188	126
その他の包括利益合計	△188	126
四半期包括利益	1,103	1,103
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,103	1,103
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-



(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,836	1,353
減価償却費	404	546
支払備金の増減額 (△は減少)	231	328
責任準備金の増減額 (△は減少)	459	1,276
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△13	△1
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△72	△82
価格変動準備金の増減額 (△は減少)	5	8
利息及び配当金収入	△111	△155
有価証券関係損益 (△は益)	△63	△220
株式報酬費用	22	74
新株予約権戻入益	△9	△8
支払利息	0	0
有形固定資産関係損益 (△は益)	0	10
その他資産 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は増加)	400	149
その他負債 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は減少)	232	136
小計	3,322	3,415
利息及び配当金の受取額	147	176
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△432	△875
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,038	2,716
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△2,522	△10,244
有価証券の売却・償還による収入	2,475	5,453
貸付けによる支出	△147	-
資産運用活動計	△194	△4,791
営業活動及び資産運用活動計	2,843	△2,074
有形固定資産の取得による支出	△157	△314
有形固定資産の売却による収入	0	8
無形固定資産の取得による支出	△280	△431
事業譲受による支出	-	△519
その他	△33	△7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△666	△6,056
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
株式の発行による収入	5,915	10
リース債務の返済による支出	△4	△7
配当金の支払額	△90	△101
自己株式の取得による支出	△0	-
新株予約権の発行による収入	40	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,861	△97
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	8,232	△3,436
現金及び現金同等物の期首残高	17,128	27,693
現金及び現金同等物の四半期末残高	25,360	24,256

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	損害保険事業				
外部顧客への経常収益	25,620	640	26,261	-	26,261
セグメント間の内部経常収益又は振替高	-	229	229	△229	-
計	25,620	870	26,491	△229	26,261
セグメント利益又は損失 (△)	2,046	△212	1,833	-	1,833

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店事業、動物病院支援事業、動物医療分野における臨床・研究事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の合計額は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	損害保険事業				
外部顧客への経常収益	29,269	1,315	30,585	-	30,585
セグメント間の内部経常収益又は振替高	-	337	337	△337	-
計	29,269	1,653	30,922	△337	30,585
セグメント利益又は損失 (△)	1,610	△237	1,372	-	1,372

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店事業、動物病院支援事業、動物医療分野における臨床・研究事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の合計額は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

3. 補足情報

(1) 2020年3月期 第3四半期損益状況

(単位：百万円)

区 分		前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	比較増減	増減率 (%)
経 常	保 険 引 受 収 益	25,321	28,879	3,557	14.1
	(うち正味収入保険料)	( 25,321 )	28,879	3,557	14.1
	保 険 引 受 費 用	17,496	20,251	2,754	15.7
	(うち正味支払保険金)	( 13,789 )	15,160	1,370	9.9
	(うち損害調査費)	( 761 )	813	51	6.8
	(うち諸手数料及び集金費)	( 2,254 )	2,672	418	18.6
	(うち支払備金繰入額)	( 231 )	328	97	42.1
	(うち責任準備金繰入額)	( 459 )	1,276	816	177.6
損	資 産 運 用 収 益	271	374	103	38.3
	(うち利息及び配当金収入)	( 111 )	155	43	39.0
	(うち有価証券売却益)	( 159 )	219	60	37.9
	資 産 運 用 費 用	3	6	3	105.1
	(うち有価証券売却損)	( 2 )	6	4	209.3
	(うち有価証券評価損)	( 1 )	-	△1	△100.0
	営 業 費 及 び 一 般 管 理 費	6,654	8,392	1,737	26.1
益	そ の 他 経 常 損 益	395	769	374	94.6
	経 常 利 益	1,833	1,372	△460	△25.1
特 別 損 益	特 別 利 益	9	11	2	22.9
	特 別 損 失	6	30	24	404.9
	特 別 損 益	3	△19	△22	△666.6
税金等調整前四半期純利益		1,836	1,353	△482	△26.3
法人税及び住民税等		475	477	1	0.3
法人税等調整額		69	△100	△169	△244.6
法人税等合計		544	377	△167	△30.8
四半期純利益		1,291	976	△315	△24.4
親会社株主に帰属する四半期純利益		1,291	976	△315	△24.4

(2) 経常収益の状況

経常収益をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	対前年 同四半期比
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	(%)
損害保険事業 (ペット保険)	25,620	29,269	14.2
損害保険 (アニコム損害保険(株))	25,620	29,269	14.2
(うち正味収入保険料)	25,321	28,879	14.1
その他の事業	640	1,315	105.4
動物病院支援	151	165	9.1
保険代理店	9	11	18.9
動物医療分野における臨床・研究	335	617	84.2
その他	144	521	261.3
合計	26,261	30,585	16.5

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 種目別保険料・保険金

アニコム損害保険株式会社における保険引受の実績は以下のとおりであります。

① 元受正味保険料 (含む収入積立保険料)

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)			当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年同四半期 増減 (△) 率 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年同四半期 増減 (△) 率 (%)
ペット保険	25,321	100.0	9.7	28,879	100.0	14.1
合計	25,321	100.0	9.7	28,879	100.0	14.1
(うち収入積立保険料)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

(注) 元受正味保険料 (含む収入積立保険料) とは、元受保険料から元受解約返戻金及び元受その他返戻金を控除したものであります。(積立型保険の積立保険料を含む)

② 正味収入保険料

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)			当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年同四半期 増減 (△) 率 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年同四半期 増減 (△) 率 (%)
ペット保険	25,321	100.0	9.7	28,879	100.0	14.1
合計	25,321	100.0	9.7	28,879	100.0	14.1

③ 正味支払保険金

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)			当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年同四半期増 減 (△) 率 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年同四半期増 減 (△) 率 (%)
ペット保険	13,789	100.0	11.2	15,160	100.0	9.9
合計	13,789	100.0	11.2	15,160	100.0	9.9

(4) 有価証券関係

企業集団の事業の運営において重要なものであり、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

1. 満期保有目的の債券

該当事項はありません。

2. その他有価証券

前連結会計年度 (2019年3月31日)

種類	取得原価 (百万円)	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	差額 (百万円)
株式	263	246	△17
その他	3,692	3,499	△192
合計	3,955	3,745	△209

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券は、上表に含めておりません。

当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)

種類	取得原価 (百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額 (百万円)	差額 (百万円)
株式	255	225	△29
その他	8,583	8,578	△4
合計	8,838	8,804	△33

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券は、上表に含めておりません。

(5) ソルベンシー・マージン比率

アニコム損害保険株式会社の「ソルベンシー・マージン比率」は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日) (百万円)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日) (百万円)
(A) ソルベンシー・マージン総額	17,566	18,892
資本金又は基金等	16,321	17,134
価格変動準備金	54	62
危険準備金	—	—
異常危険準備金	1,106	1,349
一般貸倒引当金	266	335
その他有価証券の評価差額 (税効果控除前)	△209	△33
土地の含み損益	26	43
払戻積立金超過額	—	—
負債性資本調達手段等	—	—
払戻積立金超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	—
控除項目	—	—
その他	—	—
(B) リスクの合計額 $\sqrt{\{(R1+R2)^2+(R3+R4)^2\}+R5+R6}$	9,248	10,178
一般保険リスク (R1)	8,991	9,848
第三分野保険の保険リスク (R2)	—	—
予定利率リスク (R3)	—	—
資産運用リスク (R4)	1,009	1,433
経営管理リスク (R5)	200	225
巨大災害リスク (R6)	—	—
(C) 単体ソルベンシー・マージン比率 (%) $[(A)/\{(B)\times 1/2\}]\times 100$	379.8%	371.2%

(注) 上記の金額及び数値は、保険業法施行規則第86条及び第87条並びに平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しております。

<ソルベンシー・マージン比率>

- ・損害保険会社は、保険事故発生の際の保険金支払や積立型保険の満期返戻金支払等に備えて準備金を積み立てておりますが、巨大災害の発生や、損害保険会社が保有する資産の大幅な価格下落等、通常の見込みを超える危険が発生した場合でも、十分な支払能力を保持しておく必要があります。
- ・この「通常の見込みを超える危険」を示す「リスクの合計額」（上表の(B)）に対する「損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力」（すなわちソルベンシー・マージン総額：上表の(A)）の割合を示す指標として、保険業法等に基づき計算されたのが、「単体ソルベンシー・マージン比率」（上表の(C)）であります。
- ・「通常の見込みを超える危険」とは、次に示す各種の危険の総額をいいます。
  - ① 保険引受上の危険 : 保険事故の発生率等が通常の見込みを超えることにより発生し得る危険  
 （一般保険リスク） （巨大災害に係る危険を除く）  
 （第三分野保険の保険リスク）
  - ② 予定利率上の危険 : 積立型保険について、実際の運用利回りが保険料算出時に予定した利回りを下回ることにより発生し得る危険  
 （予定利率リスク） 下回ることにより発生し得る危険
  - ③ 資産運用上の危険 : 保有する有価証券等の資産の価格が通常の見込みを超えて変動することにより発生し得る危険等  
 （資産運用リスク）
  - ④ 経営管理上の危険 : 業務の運営上通常の見込みを超えて発生し得る危険で上記①～③及び⑤以外のもの  
 （経営管理リスク）
  - ⑤ 巨大災害に係る危険 : 通常の見込みを超える巨大災害（関東大震災や伊勢湾台風相当）により発生し得る危険  
 （巨大災害リスク）
- ・「損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力」（ソルベンシー・マージン総額）とは、損害保険会社の純資産（社外流出予定額等を除く）、諸準備金（価格変動準備金・異常危険準備金等）、土地の含み益の一部等の総額であります。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が保険会社を監督する際に、経営の健全性を判断するために活用する客観的な指標のひとつであります。その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされております。